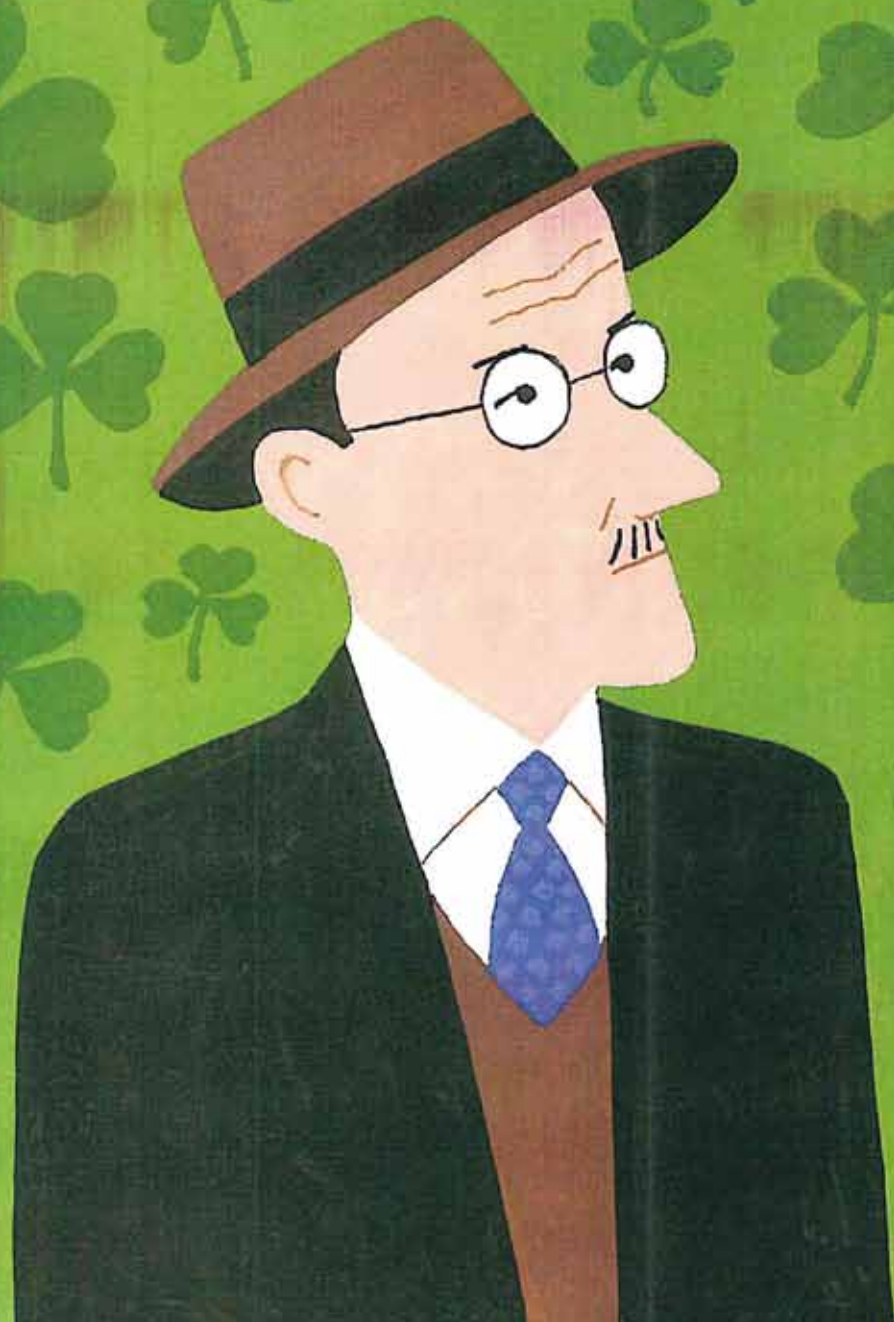


週刊文春

3月19日号 定価400円



擁壁(がけ地)改修のスペシャリストが提案! 地震・台風・集中豪雨に打ち克つ「KD工法」

一級建築士事務所 カヌカデザイン

東日本大震災から4年。3月1日に常磐自動車道が全線開通を果たすなど、東



鹿嶋 嘉津博 社長



①「KD工法」による擁壁改修例
②横浜知財みらい企業認定証授与式にて

こと、横浜市の一級建築士事務所カヌカデザインが開発した「KD工法」だ。

「斜面の崩壊を防ぐ擁壁は、個人の所有物であっても街の重要なインフラです。しかし、既存不適格な擁壁が全国各地に存在している。そのままでは災害時に崩れ、近

北地方は復興に向けて少しずつ歩を進めてきた。いつ起こるかわからない大災害への備えは、この国に課せられた永遠の課題でもある。
そんな中、地震や台風、集中豪雨などの災害時に発生する、土砂崩れや土石流の被害を食い止める独自の擁壁が注目されている。擁壁(がけ地)改修のスペシャリスト

隣住民に被害を及ぼしかねません。その危険性を多くの方に認識してほしい」と、開発者の鹿嶋嘉津博社長は話す。青森出身の鹿嶋社長は、少年時代十勝沖地震に遭遇した経験を持つ。KD工法の最大の特徴は、既存擁壁の課題を克服した2点支持式の構造にある。メリットは大きく6つ。

①地盤の悪い土地でも耐震性・安全性を確保。②従来は重機が入れずに施工できなかった、狭あい地にも対応。③既存の建造物を壊さずに構築できる。④擁壁が垂直のため敷地面積が増え、庭を広げるなど土地を有効活用できる。⑤底盤が不要。従来のL字型擁壁と比べ、土工・コンクリート・鉄筋量を3分の1程度に軽減できる。そのため工期を短縮でき、環境にやさしく、コスト削減に大きく寄与する。⑥デザイン性が高く、景観に配慮できる。
設計は同社が手掛け、施工は全国の協力会社が担当。施工後は安心と安全を守るための擁壁保険が用意されており、保証書も発行される。これは日本初のことだ。
従来工法の概念を打ち破る技術で、取得した特許は6つ。昨年11月には横浜知財みらい企業に認定され、2月には「KDパイル工法」が「大臣認定杭」として国土交通省に認定された。
日本大学准教授(工学博士)の佐藤秀人氏との研究で

も、その高い性能が証明されているKD工法。個人だけでなく、近年は地方自治体からの引き合いも増えている。防災上の課題がある個人所有のがけに対して助成金を出し、安全・快適な街づくりを推進する自治体からの相談もある。
同社では、既存擁壁の宅地調査を随時実施。各地の施工例はWEBサイトで閲覧可能だ。横浜市神奈川区では実際の施工現場を見学できる。全国に約2,000もの活断層が存在する日本。震災の教訓を胸に、まずは身近な擁壁に目を向けてみてはいかがだろうか。(森)

【会社データ(問い合わせ先)】
本社 神奈川県横浜市西区戸部本町51-13 松村興産ビル2F
☎ 045-328-3695
創業 1990年1月
事業内容 擁壁における設計・施工、建築物の設計など
一級建築士事務所登録 神奈川県知事 13984号
<http://www.kanuka.jp>